

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

各論演習 24-1

問1)

第1工程と第2工程を経て最終製品を生産している、株式会社セイヨウの付属資料にもとづき、下記の文章中の『 』の中には適切な用語を、()の中には適切な数値(20×0年と20×1年との差額)を計算し記入しなさい。

当社では、従来、製品の品質管理が不十分であったので、セイヨウ社長は、企業内のさまざまな部門で重点的に品質保証活動を実施するため“予防-評価-失敗アプローチ”を採用し、その結果を品質管理原価計算で把握することにした。1年間にわたるその活動の成果はめざましいものがあり、20×0年と20×1年とを比較すると、『 ① 』コストである、『 ② 』原価と『 ③ 』原価との合計は、新たな活動を含め、上流からの管理を大幅に重視したために、20×0年よりも(④)万円だけ増加したが、逆に下流で発生する『 ⑤ 』コスト、すなわち、『 ⑥ 』原価と『 ⑦ 』原価との合計は、20×0年よりも(⑧)万円も節約し、全体として品質保証活動費の合計額は20×0年よりも20×1年は1,000万円も減少させることができた。

結局、『 ① 』コストを節約してしまうと『 ⑤ 』コストが巨額に発生していたが、20×1年は積極的に『 ① 』コストをかけることによって『 ⑤ 』コストを激減させることができた。この関係は『 ⑨ 』の関係であることを理解した。

(付属資料)

	20×0年	20×1年	(単位：万円)
受入材料検査費	150	300	
販売製品補修費	1,530	690	
品質保証教育費	100	250	
不良品回収費	80	20	
仕損費	800	430	
製品設計改善費	620	820	
不良品手直費	1,600	740	
返品廃棄処分費	550	150	
第1工程完成品検査費	0	300	
第2工程完成品検査費	580	300	
QCサークル費用	0	210	
出荷後の品質調査費	0	240	
製造工程改善費	0	560	
品質保証活動費合計	6,010	5,010	

解1)

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	